

出雲地区

保護司会だより

第40号

目次

巻頭言(更生保護施設 施設長)	1
社会を明るくする運動(標語)	2
社会を明るくする運動(作文)	4
社明運動啓発講演会	6
更生保護女性会の活動	7
第二次再犯防止推進計画	8
更生保護功労受彰者	8
保護司の異動	8

更生保護施設「しらふじ」における 支援の現状について

施設長 矢野 喜郎



しらふじは、全国に百一箇所ある更生保護施設の一つで、県内唯一の施設です。ヘルン旧居まで二分、後ろの丘を登れば松江北高に至るといふ場所に位置しています。定員は二十名、年間約八十人が入所します。利用者の八割は、刑務所を仮釈放となった人達で、平均在所期間は約三か月です。この間に利用者の特性(罪名、年齢、病気や障害の有無等)に応じて、各種の支援を行います。支援の内容は多岐にわたりますが、次の三つに集約されます。

一つ目は「自立資金造成支援」です。早期に就労先を斡旋し、就労により得た賃金を無駄遣いさせないで自立資金の確保を図る支援を行います。

二つ目は、退所後の「住居確保」に係る支援です。松江市近郊に居

住を希望する人は、年間約二十人です。そのほとんどは、アパート等を借りる際の保証人が居ません。そのため、協力雇用主に住居の提供をお願いする一方、保証人なしでも入居を認めて下さる大家さんを頼るなどして住居の確保を行っています。

三つ目は「退所者に対するフォローアップ」です。退所者が各種相談のため、訪ねて来ます。相談内容は様々で、令和四年度は八十三人、百十一件に及びました。職員は、再犯防止の一助になればとの思いから、個々の相談事に親身になって対応しているところです。

支援の一端を紹介させていただきます。引き続き支援を賜りますようお願い申し上げます。



〈施設外観〉

令和5年度 第73回“社会を明るくする運動”

標語及び作文の入賞作品

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部（出雲市青少年育成市民会議との共催）として募集しました。一般の部は188点、小学生の部は296点、中学生の部は237点の応募がありました。

また、第73回“社会を明るくする運動”島根県推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から78点、中学生から31点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり入賞作品を決定しました。
たくさんの応募をありがとうございました。

一般の部

最優秀賞

やめようと
言える仲間が 真の友
西郷町 鐘築 直也

優秀賞

認め合う
心がつくる 優しい社会
大社町 前島 一美

思いやり
地域に根付く 支援の輪
上塩治町 松本 弘子

思いやる
心で摘み取れ 非行の芽
斐川町 為石 光代

だいじょうぶ？
その一言に 助けられ
乙立町 安喰 宏美

道しるべ
灯そう 笑顔とありがとう
知井宮町 花田 美香

佳作

あいさつに
笑顔をそえて 明るい社会
佐田町 和田 智美

その言葉

自分にむかって 言えるかな
乙立町 今岡 恭子

見すすな
彼らの叫びに 寄り添って
河下町 原 貴子

支えよう
立ち直る勇気 みんなして
斐川町 稲田佳寿子

犯罪を
なくす力も 地域力
佐田町 重富 圭二

育てよう
子どもの笑顔 地域の宝
大社町 錦織かなえ

良いマナー
護る社会に 非行なし
湖陵町 打田 薫

ひとの子も
わが子と同じ 愛の声
大社町 佐々井康光

なにげない
言葉のかけあい 地域の輪
小境町 長崎 美恵

忘れない
感謝の気持ち 思いやり
湖陵町 山根 英子

小学生の部

最優秀賞

めをあわせ
あいさつしよう
ところから
中部小学校 一年 上野 奈緒

優秀賞

ダメはダメ
ゆう気をもって
つたえよう
湖陵小学校 三年 中尾 瑠希

佳作

つくろうよ
地域の笑顔 明るい社会
四路小学校 六年 鎌田 絆愛

手をつなぐ
そのぬくもりで
ほっとする
湖陵小学校 四年 中尾 理人

「やめようよ」
言える勇気が
本当の友達
遙堀小学校 五年 荒木 稚景



犯罪は

みんなの笑顔 うばうこと
四路小学校 六年 金山 睦翔

見た目でね 差別やいじめ
しないだね
湖陵小学校 六年 鬼村 桃加

あいさつで 守れる笑顔
ふせげるケン
湖陵小学校 四年 石飛 紗那

ありがとう
たった一言 いい気持ち
遙堀小学校 四年 金築 玲花

やさしさは
みんなのために
つかうもの
今市小学校 二年 吉田 健人

だいじょうぶ
みんながいるよ
はなしてね
湖陵小学校 六年 石飛 遥希

比べない みんな友だち
なかよくね
遙堀小学校 五年 松井 柚月

中学生の部

最優秀賞

変わろうと
頑張る人を包む
地域の輪
南中学校 三年 川上 ひなた

優秀賞

一人じゃない
みんなで作ろう
笑顔の輪
斐川東中学校 一年 三嶋 そら

佳作

耳すませ
助けを求める 声聞いて
南中学校 一年 市場 夏乃

いじめはね
一生消えない 心の傷
南中学校 三年 飯國 翔

おしつけない
自分の中で
決めたふつう
斐川東中学校 二年 羽根田 結珠 栄



つくりたい

笑顔あふれる
やさしい町
斐川東中学校 一年 須田 葉那

笑顔 挨拶 思いやり
それが幸せ 3点セット
南中学校 三年 奥井 莉紗

人と人 みんなで創る
この居場所
南中学校 一年 岡田 蒼生

大切に
みんなの個性の 輝きを
南中学校 二年 永島 武流

広げよう
地域のふれあい
地域の絆
南中学校 二年 青木 一葉

近くには
支えてくれる 人がいる
南中学校 三年 本田 安侑香

あいさつで
広げて繋ごう 心の輪
斐川東中学校 二年 久保 陽香

「社会を
明るく
する運動」

作文コンテスト優秀作品



小学生の部

みんなで和顔愛語

西田小学校 六年 大 錦 凛

「社会を明るくする作文を書くよ。」私は夏休みの宿題のことをお父さんに話しました。すると、「お父さんの職場には、今その旗が立っているよ。」とお父さんは言いました。私は、旗について気になったので、お父さんに聞いてみました。お父さんは福祉の仕事をしていて、その職場には『保護司』という仕事をする人の事務所があることや保護司と社会を明るくする運動について教えてくれました。

保護司とは、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことのないよう、その立ち直りを地域で支える民間ボランティアで、保護司法という法律に基づいて法務大臣からいしょくされた非常きんの国家公務員です。罪を犯してしまった人に寄りそい、指導や助言を行ったり、見守りをしたりして、社会復帰を手助けすることが保護司の主な役割です。また、犯罪が起きにくくなるよう、地域社会での理解を深める活動も行います。そのような活動とおして社会を明るくする運動をしているのが保護司だということがわかりました。

私はふだん、ニュースで非行や罪を犯した人を見ると、「なぜこんな悪いことをする人がいるんだろう。」といやな気持ちがするだけでした。でも、保護司について知って、考え方が少し変わりました。罪を犯すことは、決して許されることではないけれど、罪を犯したことを反省して、もう一度社会で活動する場所を取りもどせるよう、地域社会で理解を広めることが大切だと思うようになりました。生まれた時から悪い人なんていないので、育った環境やつらい経験から悪いことをしてしまうということもわかってきました。悪いことをした人、と一方的に決めつけるのではなく、相手の立場に立って考えてみるのが大切なんだなと思いました。

私はよく妹とけんかします。その時、自分におこっている理由があるように、妹にも理由があるはずです。そんな時には、妹の立場に立って、妹の気持ちを考えると、おこった気持ちは少しおさまります。それを心がけるときつとけんかも減るだろうと思いました。

社会でも同じで、みんなが相手を思いやり、関わりをもつことが大切だと思います。そんな話をお父さんしていると、お父さんは、「和顔愛語が大事なね。」と言いました。調べてみると、それは笑顔で愛情のこもった言葉を話すこと、という意味の言葉でした。ふだん自分のことで精いっぱい、なかなかできることではないけれど、みんなが相手を思いやる心と和顔愛語をもてば、犯罪が起きにくい明るい社会になるのではないかと思います。

※この作品は「社会を明るくする運動」島根県推進委員会の審査で最優秀賞（島根県推進委員会委員長賞）を受けたものです。



中学生の部

心のキャッチボール

平田中学校 一年 玉木 陽依莉

私も含め、多くの人にとって身近であり、当たり前のように利用している「インターネット」今ではたくさんのアプリをすく手に入れられる世の中になっていきます。その中でも、ラインという便利なアプリを使ってたくさんの人と会話をしている人も少なくないでしょう。しかし、便利だからとラインだけで話を進めた結果、私は苦い経験をしたことがあります。

私は中学生になり、バスケットボール部に入部しました。そしてブロック大会に向けて、部員みんなでお守りを作ることになりましたが、学校ではなかなか話し合いができず、結局帰宅後にラインでやり取りを始めました。しかし、それぞれが質問や意見を出し、段々

収集がつかなくなってしまいました。ラインだけの話し合いでは、言葉が足りなかったり、相手の気持ちを上手く理解できず、本人が思っていることを否定してしまうことになったりと、結局返信に困り、話し合いが途中で止まってしまうしました。その結果、誤解が生まれ、お互いの関係もぎくしゃくしてしまったのです。

このように、ラインにはすぐに連絡を取り合えるメリットがある反面、デメリットもたくさんあります。ラインでは、表情のない言葉でしか会話をすることができないので、そんなつもりがなくても、簡単に人を否定したり傷つけてしまったことがあります。今回、このようなデメリットをあまり分かっていなかった私達がラ

インで話を済ませようとしたことは、とても怖いことだと気づきました。

ラインでやり取りをする時には、相手を傷つけないかどうか、自分の考えが伝わるかどうかをものすごく慎重に選んで返信しないといけないと思います。でもやはり、大事なことを話す時は、実際に会って自分の考えを相手に伝えなければならぬと思います。直接会って話すことで、相手の表情も見え、どんな考えを持っているかもよく分かり、より相手に寄り添うことができると思います。そして、自分の気持ちや考えも相手に伝えやすく、誤解されることも少なくなると思います。

人間は、動物の中で唯一言葉を話せる生き物です。それなのに、文字だけで話を終わらせるのはもったいないと思います。直接会って会話することで、文字では伝えきれない思いも伝え合うことができます。またまだ言葉での

コミュニケーションをとることが未熟な私達も、このような経験をたくさん積み重ねることで、相手の気持ちを考え、思いやりの心がたくさん芽生えてくるのではないのでしょうか。

中学校に入学し、小学校からさらにたくさんの人に出会い、そこには自分とは違った個性を持っている人がたくさん集まっています。その中で、人との付き合いを上手に築いていかなければなりません。個性豊かな一人一人だからこそ、それぞれの価値観があると思います。その個性や価値観の違いが、誤解を生むのではなく、お互いより良い刺激となり、成長し合えるよう、文字だけで話を済ませるのはやめて、直接会って「心と心」で会話をすることが大切だと思います。

私は、今回の経験を通して、人間にとって大切な、人と人とのつながり、そして思いやりの心を育むことを心がけていきたいです。



第七十三回「社会を明るくする運動」メッセージ伝達式のあと、啓発講演会が開催されました。講師には落語家の桂文五郎さんをお招きし、落語を交えながら楽しくお話をいただきました。

文五郎さんは、大阪府堺市出身で、母子家庭でした。学生時代から落語に興味があり、落語家にあこがれがあったが、母に普通の定職に就きなさいと言われ、高校卒業後オートバイの整備職となります。真面目に働き、二十四才の時に若くして工場長を任されるようになり、しかし、客のクレーム対応や、部下の陰口などで精神的に徐々に追い詰められていったとのこと。

ついに、二十八才の時に退職し、桂文珍師匠の門を叩き、落語家を目指したそうです。当初は断られたそうですが、退職し退路を絶てきたと伝えると師匠も観念されたようです。三年間修業しましたが、この時間の過ごし方がそれまでと全く違っていて衝撃的だったらしいです。掃除をした

もうちょっと

ええ加減な生き方でいい

第73回「社会を明るくする運動」

啓発講演会 聴講記

保護司 赤井賢照



り、稽古をつけてもらったり、話し相手になったり、非生産的なことをしているながらご飯を食べさせてもらえることが今までの価値観からは信じられなかったとおっしゃっていました。

その中で、師匠から「お前はまっすぐすぎてつまらない。ユーモアが足りない。」と言われ、そこからユーモアについて考えるようになったそうです。小噺の世界のように、大変な状況でも冗談を言ってお和ませるようなセンスが素晴らしいと思ったそうです。現代のように正義を振りかざして自分と違う意見を攻撃してしまうような、まっすぐぶつかり合う世界はとて

もつらくてしんどいと思われたようです。そして、整備士時代の自分を重ねてしまわれたのです。落語の世界の住人はアホウばかりだけど、お互いに言いたいことを言い、人間関係を構築していくということが、ユーモアをもって生きるということではないかと思うとおっしゃっていました。そして、それが「もうちょっとええ加減な生き方でいい」ということなのだと思います。

なお、講演の中で、『寿限無』と『青菜』という落語を二席披露してくださいました。声を出して笑うことで、心も身体も軽くなった気がします。



斐川地区

更生保護女性会の取り組み

斐川地区更生保護女性会長 江角 佳子

昭和三十三年九月、斐川地区更生保護女性会は県内で益田地区に次ぎ、二番目に結成されました。現在は七支部二百名で活動しています。女性会の取り組みをご紹介します。

四重奏を間近に聞き、心が洗われ、活動の新たな意欲が沸き起こりました。



研修会

一・総会と研修会

総会は、今年度から出席人数制限せず、会員の過半数が出席するなか、法務省松江保護観察所長、出雲地区保護司会長、自治協会会長、各コミセンセンター長にご臨席いただきました。

総会後の研修会で今年度は弦楽



多くの会員が総会に出席しました



街頭啓発活動を行いました

二・社会を明るくする運動、メッセージ伝達式・講演会に参加

例年七月に出雲市が開催するこの会に、二十七名が参加しました。のち、斐川地区に帰り保護司会と協働で街頭啓発活動を行いました。

三・講演会と対話集会に参加と標語の募集

斐川東中学校と斐川西中学校で、毎年交互に開催される講演会と対話集会に参加しています。

社会を明るくする運動、強調月

間にあわせ、本年は両中学校に社会を明るくすることをアピールする標語を依頼しました。結果、三年生全員の出品をいただきました。時代を反映した若い皆さんの目線での標語は私共の心をゆさぶり、町内各



中学生のみなさんからたくさんの標語を出品いただきました



地区の研修館等に全作品を掲示しております。

四・愛の図書贈呈

子育て支援活動の一貫として昭和五十三年から行っている活動で、地区内の全小・中学校、幼稚園、子ども園、保育園に図書カードを贈呈しています。幼稚園、保育園訪問では、更生保護女性会役員が読み聞かせ、手遊び等を行い、園児と共に楽しい時間を過ごしました。

五・支部活動

地区内七支部がそれぞれに特色ある活動をしています。「入学・卒業式に寄せ植え花プランター贈呈」「視察研修」「高齢者訪問」「通学路見守り」「物作り活動」等々実施しています。



図書カードを贈呈しました

図1 刑法犯 検挙人員中の
再犯者人員・再犯者率の推移

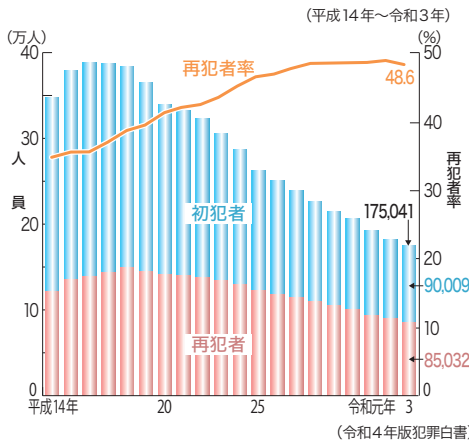
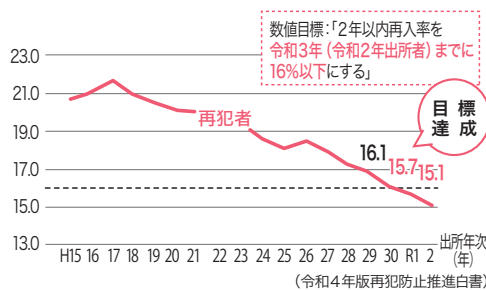


図2 出所受刑者の2年以内再入率の推移



国の第二次再犯防止推進計画が 策定されました

松江保護観察所

刑法犯認知件数は戦後最少を更新するも、再犯者率は上昇傾向であったこと(図1)を背景に、平成二八年に再犯防止推進法が施行され、平成二九年に国の再犯防止推進計画が策定されました。満期釈放者対策の充実強化、地方公共団体との連携強化、民間協力者の活動の促進等について取り組み、平成二四年に定められた「再犯防止に向けた総合対策」における数値目標も令和元年に達成(図2)されましたが、さらに取組を進めるために、本年三月に国の第二次再犯防止推進計画が定められました。基本的な方向性として、

- ・ 個々の対象者の主体性を尊重し、それぞれが抱える課題に応じた「意の長い」支援の実現
- ・ 相談拠点及び民間協力者を含めた地域の支援連携拠点の構築
- ・ 地方公共団体の主体的かつ積極的な取組を促進するとともに、国・地方公共団体・民間協力者等の連携を更に強固にする

ことが掲げられています。

今後、地域の関係機関との連携をますます強化し、再犯を少しでも減らしていきたいと思っておりますので、皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。

更生保護功労受彰者

(令和五年)

法務大臣表彰	野津 雅史	原 洋子
全国保護司連盟理事長表彰	宮本 明子	長子 明久
島根県知事感謝状	石橋 敏昭	
中国地方更生保護委員会委員長表彰	神門 保雄	中尾 亮
釜屋 治男	米田 敬止	
中国地方保護司連盟会長表彰	井上 安弘	岩佐 昌昭
岡田 隆	勝部 篤	
藤原恵美子	堀内 時雄	
水 教一		
松江保護観察所長表彰	今岡 輝夫	坂本 裕太
原 正	吉岡 広明	
島根県保護司会連合会会長表彰	吾郷 宏光	津戸 弘光
山岡 尚	林 誠治	

こもれび

2019年末から始まった新型コロナウイルスによってもたらされた経済的、社会的な影響をまとめて「コロナ禍」と呼びます。禍とは、予期していなかった災難や不幸、厄などを意味するそうです。今年になってからも、地球上のあちこちで市民が「戦禍」に翻弄されています。「禍」と呼ばれる災害は、本当

に予期できなかったのでしょうか。それらは記憶が薄れていくと、再び「戦禍」や「コロナ禍」、「・・・禍」として、予測できない災害は何度でも我々の前に出現することは歴史が示す通りです。これらの姿を二度と見なくても良い社会を築く手段は、私たちの手の中にある様に思いますが、皆さんはどう思われますか。(川光秀昭)

保護司の異動

◎退任

宮本 明子(出雲)

(令和五年十一月三十日付)

◎新任

布野 直美(出雲)

(令和五年十二月一日付)

◎再任

石飛 博雄	木次 順子
高見 睦哉	花原 良治
藤原恵美子	山岡 尚
山田 信之	(以上出雲)
吾郷 宏光	堀内 時雄
	(以上平田)
稲田 昌史	勝部 篤
神門 保雄	(以上斐川)
中尾 亮	水 教一
	(以上河南)
勝島 徹正	川光 秀昭
津戸 弘光	和田 昌隆
	(以上大社)

(令和五年十二月一日付)